



The Federation of Japan Amateur Orchestras Corp.

発行所:(社)日本アマチュアオーケストラ連盟
発行責任者:森下 元康

〒441 8028 愛知県豊橋市立花町46 光陽ビル3F
電話(0532)33 6885 FAX(0532)33 6875
e-mail:info@jao.or.jp http://www.jao.or.jp/



vol.55

第32回 全国アマチュアオーケストラフェスティバル

大阪大会を省みて

大阪大会 実行委員長 松田 齋



昨年8月の“大阪大会”は、北は北海道から南は沖縄まで95団体と、連盟関係のスタッフや、地元大阪の歓迎演奏参加者、スタッフを含め総勢約600名のご参加を得て、大阪市中之島の大阪国際会議場“グランキューブ大阪”を舞台に開催いたしました。

昨年は、次々に来襲する台風心配しながらの開催ではありましたが、一部東北地方の皆さんの初日のご参加に支障があったものの、全体的にはうまく台風の狭間に入り皆様がほぼ順調にご参加頂けたことは幸いでした。

最終日の「JAOフェスティバルコンサート」は、地元大阪を代表して府知事自らピアノ協奏曲のソロをご披露頂いたことや、出席下さった指揮者やコンサートマスターがいずれも地元で人気の高い先生方であったことも幸いして、結局2,700席が殆ど満席という状況でした。大会前に既に前売り券は完売となり、出演者にお聴き頂く予定にしていた席まで前売りや当日券に充当しなければならぬという、開催者にとっては誠に嬉しい悲鳴で、出演者の皆様の熱演も相俟って、森下理事長からも「この記録は当分破られないだろう」とのお褒めの言葉を頂戴いたしました。

またこのコンサートの模様は、当日のテレビや、翌日の朝刊にも大きく報道され、大会の意義を多くの市民の方に知って頂くことが出来たものと喜んでおります。

想えば、“全国大会を大阪で！”と決まり、まず私が悩んだのが開催会場の問題でした。「折角大阪にお越し頂くのであれば、やはり大阪を代表するコンサートホールで演奏を楽しんでほしい」との思いが強かったのですが、練習会場や楽屋等の問題を考えると多くの無理があり、他にも何箇所か候補を出して当ってみました。練習がスムーズに運ぶこととホールの舞台の広さや客席の収容人数等を勘案して、結局“グランキューブ大阪”での開催に決めたのでした。

しかし大会直前になって、A・B両オケの練習会場相互の音洩れが予想以上に大きく、練習進行に支障があることが判りました。それは会場選定当初から多少危惧していたことではありましたが「何とかならないだろうか！」ということで、いろいろ委員の方に知恵を出して頂き、方策を講じて貰ったのですが結局音洩れを完全に止めることは出来ず、A・B両オケの皆様にはご迷惑をお掛けしましたことを改めてお詫び致します。

今大会は、私共関西シティフィルハーモニー交響楽団が主管団体として準備、運営に当たらせて頂いたものの、計画の当初より大阪府内のJAO加盟7団体の方々との「オール大阪体制」で、ほぼ毎月定期的な会議を開きご協力とご助言を得ながら準備を進めて参りました。そしてこの「オール大阪体制」が見事な成果をもたらし、準備段階は言うに及ばず、大会期間中非常に多くの方達の知恵と労力が結集した結果、大会参加者の皆様からも多くのお褒めの言葉を頂戴することが出来たことは特筆すべき成果ではなからうかと思っております。

ただ、一昨年末の予備調査と昨年春の正式申込みを通じて、大変多くの方々からの参加のご希望を頂戴しながら、メンバーの調整のためとは言え、約40名の方達に不本意ながら参加を断念して頂かねばならなかったことは誠に断腸の思いでありました。ご参加頂けなかった方には、本当に申し訳ありませんでした。何卒ご容赦の上今後に期して下さいますようお願い申し上げます。

末筆になりましたが、大会開催に当り種々ご教示、ご協力を頂きました連盟各位、大会スタッフ各位、そして何にも益して大会を大いに盛り上げて下さった参加オーケストラの皆様深く感謝申し上げます。



栗田博文指揮 Aオケ シベリウス「交響曲第2番」



西本智実指揮 Bオケ ムソルグスキー「展覧会の絵」

32th Japan Amateur Orchestra Festival in OSAKA

— グランキューブの熱き3日間 〈1日目〉 —



開会式にて森下理事長の挨拶



初合わせ ちょっと固くなって？



音楽に国境はありません



西本先生と太田府知事 真剣に打ち合わせ中



森悠子先生 Mオケの皆さんと



「今年もいっちょやったるか〜」とファゴット達



熱の入った練習風景



皆さん集まってボーイングの確認中

32th Japan Amateur Orchestra Festival in OSAKA

— グランキューブの熱き3日間 〈2日目〉 —



栗田先生 力の入った練習でした



一発が大切ですね 指揮に集中して



オーケストラメンバーの視線が集まっています



森悠子先生のもと音楽を楽しみました



懇親会の始まり みんなでカンパ〜イ



乾杯の音頭をとる太田府知事



懇親会の一コマ 弦楽四重奏の発表中です



楽しくお食事中

32th Japan Amateur Orchestra Festival in OSAKA

— グランキューブの熱き3日間 〈3日目〉 —



いつもと違う配置で演奏しました



開場待ちのお客さん



本番前の西本先生



これから本番ガンバッテきま〜す



在阪メディアからのインタビュー中



西本先生の指揮でピアノを演奏する太田府知事



本番後の打ち上げにて 左から松田委員長、西本先生、森事務局長



次回の名古屋大会PR中の高橋委員長

32th Japan Amateur Orchestra Festival in OSAKA

— グランキューブの熱き3日間 〈おまけ〉 —



ちょっと一休み...



懇親会 みんなで楽しく歓談中



名札は食べられませんネ



栗田先生 ハッスル・ハッスルと盛り上がっていました



小柄だけどエネルギッシュな森悠子先生



本番直後の栗田先生



西本先生 参加者からのサインゼメ



太田府知事熱演でした

指導者紹介



森 悠子

これまでの練習の感想をお願いします

大満足です。何故かと言うと、無邪気で無心の、そして本当に音楽というものに喜びを持っている人たちがばかりがいらっし

やっているからです。(3回目なのですが)毎回ここに来て思うのですけれど、皆さんが活気にあふれ生き生きとしていらっしやいます。三度の食事よりも音楽が好きだという人たちがばかりが集まっていますからね、その大勢のエネルギーに私も乗っからないと大変です。押されそう

今回、始めてアマチュア奏者を指導されたということですが、いかがでしたか

私がアマチュア奏者の指導をした事がなかったというのは、ひとことで言えば今までは時間的にもチャンスがなかったということですね。35年という長い間、ほとんどヨーロッパが本拠地になっていて(年に1・2度は帰ることもありましたが)日本にいなかったんですから。

長岡京室内アンサンブルが出来て、批評家の方々や西脇さん(JAO副理事長)の目に留めて頂き、応援して頂いて、声を掛けて頂いた、それがきっかけで今回の指導があるわけですが、アマチュアの皆さんとご一緒にいて本当に楽しいですよ、まるで海綿のように何でも吸収して持って行ってしまっ

てね…。でも、それは嬉しいですよ。逆に音楽学生の中には(私は音楽学校の先生もしてきましたが)喜んで吸収していく生徒と「フン、何言ってるの」と取り付く島もないような生徒もいるんですよ。ここに集まって来られた皆さんは、私が指示している事を無心に、おかしいとも言わずに、素直に「それもとにかくやってみよう」と言っ

練習中、よく「トライしてみましょう」とおっしゃっていましたが

学校でもそうだったんですが、私は「やりなさい」と言った事はないんですよ。いつも「トライしてみよう」。書くときも、「それが良いかどうかはまずト

次頁上段に続く

指揮者紹介



栗田 博文

これまで練習されてきた感想をお願いします

全国のアマチュアオーケストラの皆さんのレベルが(今回のフェスティバルが32回という歴史を持つと同様に)非常に

上がってきていると思いました。それがよく分かったのは初日の練習の時でした。普段と違うメンバーが集うわけだから、相当バラバラに乱れるものだと想像していたんです。誰でも当然そんなんですよ。それから、いくらよく演奏される曲だとしても、慣れるまでには時間のかかる曲なのでやや心配で…

けれども、最初から曲を通すことが可能で、それが技術的にも全く問題なかったんです。不安を見事に吹き飛ばしてくれました。歴史を重ねてきている中できつと培ってきた事が顕著に表れているのは、指揮者の要求、というかお願いした事を早い段階で感じ取って下さって、すぐに音に変換する - つまり表現に変えることができるということでしょう。二日という短時間の練習で随分いろんなことを意識しながら表現してくれたな、という驚きを感じています。

本番を終えられて演奏の感想を一言

演奏自体は本番が一番良かったと思います。僕は「本番では冷静さを忘れないで下さい」と伝えて舞台に向かい

ました。熱くなってもいいから頭の中では冷静でいて欲しいという思いでしたが、ちゃんと意識してくれてたと思います。誰かが暴走してしまう事ってあるんですよね。皆さん方は普段から経験されていることですから、難なくクリアされてましたね。しかも音楽の中に入ろうという意識が非常に高い。冷静さをきちんと持ったうえで自分の技術をコントロールして、心から表現するということをトライしてくれて良かったと思います。それは無難に安全モードで運転するという感じではなく、演奏者全員が意識して「今日のステージではこんな演奏をしよう」という自発的なイメージでした。細かいことを言ってしまうと、練習がもう一日余分にあったなら別の事も出来た

次頁中段に続く



西本 智実

これまで練習されてきた感想をお願いします

3つのオケ(総勢約300人)が一つの建物の中に集まり、それぞれのオケが練習場とか移動などいろんなスケジュールで

動いているのに「これはどうしたらええの?あしたらええの?」という混乱も全くなく、滞りなく日程が進んでいました。これはスタッフの方たちの心配り(自分も演奏されるから余計に気が付くと思うんですが)全てをとて段取り良くうまくやられていて、感心しましたね。これだけスムーズな進

行はなかなか無いと思うんですよ。

Bオケの練習では、最初のチューニングの音を聴いて練習して、次のチューニングには各人が皆と調和していけるのかな、と私は感じましたね。結局音楽的にもそういう部分は一番大切なんですよ。演奏をするには自発的な事はとても大切で必要だろうし、それは「誰かの何か」に乗っていただくだけではだめでしょうし、我が強すぎてもだめ。よく互いに聴き合って演奏するという事でしょうかね。この何日かで精神的にも音楽的にも目に見えるような音として、感じられるようになりましたね。

本番の演奏はいかがでしたか

「展示会の絵」は大変なソロの部分が多くて、それだけで皆さんも極度に緊張すると思うんです。けれども、皆さんが萎縮して硬くなるような演奏はしたくないな、というのが正直な気持ち。できるだけびのびやって欲しいと思っていました。実際皆さんはこの本番では三日間(正味2日ですね)の練習の中で「ああしよう、こうしよう」と、各々が口に出し、課題としていた事を自分なりに解釈し、解決してそれを音として滞りなく表現してくれたんじゃないかと思います。

次頁下段に続く

ライしてから書き込みましょう」なんですよ。私は「やりましょう、トライしましょう」と表現して勤めるのが好きなんです。未知のものはやってみないと分からない、食べず嫌いではだめだと思っんです。食べてみて嫌いだったら仕方ないですが、予想外においしかったら得でしょう。その時嫌だと感じたものでも、意外と何年も経ってからおいしく感じることもありますよね、人間も成長しますから。一度トライしてみて嫌いでもしばらく戸棚に入れておく。そして時々引出しから出して少しテイストしてみる…。それも良いと思うのです。私の人生はそんな事ばかりですよ。

アマチュア奏者に一言お願いします

アマチュアの方は、私たちが知らないような事を沢山知ってらして、本当に博学なんです。プロのミュージシャンにコーチして頂きたいほどね。つまり、アマチュアの方はとても熱心に研究していらっちゃって、私もここで知識を吸収できたことを実感しています。プロは皆案外自分の技術を磨いている時間が長いと自画自賛しているのに知らない事が一杯なんです。「誰々のCDはここがこうなっていて…」等プロや学生たちに講義していただきたいような“オタク派”が大勢いらっちゃいますね。アマチュアの皆さんの知識を吸収したいという欲求、演奏したいという欲求とエネルギー。それは学ぶべきだと思います。学生さんたちでも案

外自分の弾いている曲だけのCDを聴いて平気ているんですよ。このアマチュアの方たちにちょっとレッスンしてもらった方が良いんじゃないかしら。

体験という点では私の方が勝るでしょうね。私は歳を重ねましたし、ヨーロッパの様々なオーケストラに参加して、指揮者とのたくさんの出会いもありましたから。それでも本を読む時間もあまりありませんでしたから、ずいぶん勉強したとはいえ、皆さんに色々教えて頂きました。



のかもしれないし、色々ありますが、わずか二日の練習でという事を考えれば、それはもう見事です。

アマチュア奏者にメッセージをお願いします

多分、皆さんは音楽を愛して（オーケストラの場合はクラシック音楽でしょうが）始められたと思うんですけれども、趣味ということだけではなく、自分の人生に豊かさをもたらせる事を目指して欲しいです。つまり表現するという事ですよ。音楽を通じて自分の意思を表現して欲しいと思っんです。オーケストラにあっても指揮者やコンサートマスターだけではなく、そこで演奏している全員が各々、音楽に対する考え方を表現しているわけです。

れはソロであろうとも室内楽であろうとも基本的には変わらないと思います。是非、生涯音楽を愛し続けて欲しいです（皆さんはとても音楽を愛しているのが感じられるので僕は全然心配していませんが）、いろんな事情で楽器から離れなくてはならなくなったとしても、いつかどこかで必ず復帰するチャンスを作ってみてください。もっとも今回ここに来ている人はマニア中のマニアでしょうから、心配無用でしょう。

この大会のように、横のつながりを大切にして様々な情報交換をしながらどんどん切磋琢磨していきける事はなかなか他では味わえないんじゃないですかね。これからも是非発展し続けていって下さい。



アマチュア奏者にメッセージをお願いします

私はあまりアマチュアとか、プロとかそういう区別を自分の中ではしていないんですよ。別に音楽学校へ行ったからといって上手に演奏できるという訳ではないですし、逆に行かなかったから演奏が拙いということではないですから。基本的には、音楽を志す仲間として、より高め合って一緒に成長していきましょう、という事が肝心なのではないでしょうか。



参加者インタビュー

①参加種目 ②楽器名



茨城交響楽団

金子 充

①Aオケ ②Cb

何度も出ているので新鮮な気持ちではありませんが、トップを弾くのは初めてで非常に緊張しています。



北海道交響楽団

岡本 千尋

①Bオケ ②Perc

今回は展覧会の絵の一番おいしい部分をいただきました。頑張っただけで目立ちたいと思います。どうぞみなさん私の鐘を聞いてください。



福島市民オーケストラ

神野 尚登

①Aオケ ②Tub

シベリウスのこの曲はチューバの場合はかなり低音で、長いクレシェンドがたくさんあるので大変ですが、自分の音質の改善をテーマに頑張りたいと思います。



賛助出演 神戸出身

佐々木 千恵

①Bオケ ②Hrp

関西シティフィルから声をかけてもらいました。普段はいろんなオケに参加しています。自分のハーブが聞こえるかどうか心配です。



豊橋交響楽団

水谷 哲

①Aオケ ②Fg

今回の曲はこごんまりしているので、おとなしくこごんまりと、でもきっちり吹けたらと思ってこのオケを選びました。



モーツァルトアンサンブルオーケストラ(東京)

上田 由香

①Bオケ ②Cb

初めての時はときどきしたけど、年に一回各地のメンバーに会えるのが楽しみで今回も参加させていただきました。



豊橋交響楽団

平松 治生

①Aオケ ②Vn II

シベリウス頑張ります。



新潟交響楽団

山本 みちる

①Bオケ ②Ob

三日間で練習して本番を迎えなければならないので、とにかく短い練習時間を大切にしなければいけないと思います。



大津管弦楽団

田淵 亜沙美

①Bオケ ②Hrn

普段と違うメンバーでできるのがいいですね、本番楽しみです。大阪へはよく来ます。



岐阜県交響楽団

中島 義和

①Bオケ ②Vn I

出身が関西なので里帰り気分です。久しぶりにいろんな方と会えるのが楽しみです。今回の曲はとても軽快な曲なので楽しいです。



中野区民交響楽団

遠藤 志津江

①Bオケ ②Perc

だいぶこの雰囲気にも慣れてきました。普段オケでは鍵盤楽器をやることがないので楽しみです。



栃木県交響楽団

小松崎 倫子

①Bオケ ②Vn I

秋田大会以来の参加です。全国の方と一緒に演奏できるということと、もちろん大阪でおいしいものをたくさん食べることも楽しみです。



大津管弦楽団

山田 敏男

①Bオケ ②Perc

打楽器パートが小太鼓で、希望とは違ったので本当は少し苦手なのですが、西本さんの指揮で演奏ができることを楽しみにしてきたので頑張りたいと思います。



刈谷市民管弦楽団

深谷 聖子

①Bオケ ②Vn I

自分ひとりで音楽を楽しめるように、そしてみんなと仲良くなれるようにしたいと思います。お好み焼きやおいしいものをいろいろ食べて帰りたいです。



吹田市交響楽団

荒川 有加

①J A O大阪フェスティバルオーケストラ ②Tr

今までは他の都市で皆さんにお世話になってきたのでホストの今年は、皆さんに楽しんでいただけるような雰囲気作りのお手伝いができればいいと思います。



市川交響楽団

菊池 克彦

①Mオケ ②Cb

こういう練習をとても楽しみにしてきました。配置が自由に練習の仕方が独特、指揮もない...こういう形を前から望んでいたのもとても楽しみです。

参加者インタビュー

①参加種目 ②楽器名



成田フィルハーモニー管弦楽団

小倉 千秋

①Mオケ ②Cel

Mオケの場合は1月に練習していますので、今回はその延長という感じですし、半年練習期間があったので今回は楽にできると思います。



久留米市民オーケストラ

鳩宿 法子

①Aオケ ②VnII

緊張しますが、楽しんでます。遠いですが張り切って来ました。フェスティバルはこれからもぜひ参加したいと思っています。



新潟交響楽団

大塚 哲夫

①Mオケ ②VnI

こんな大きな形での管弦楽合奏ステージは初めてです。弦楽器はいろんな種類の音があると思うのですが、自分が考えていたより何倍もいろんな種類の音があることがわかりました。



福井交響楽団

中林 彰

①Aオケ ②VnII

前はフルートで参加しました。今回は全国レベルの人たちの演奏を聞いて参考にしたいということもありますし、来年福井で国民文化祭があるのでその宣伝もかねて参加しました。



多治見市交響楽団

塩崎 妙子

①Mオケ ②Va

去年Mオケの募集を見て一月の練習に参加し、今回も参加することになりました。とにかく皆さんと合奏して楽しむことが一番です。



高知交響楽団

大野 明子

①Aオケ ②VnI

この曲は自分のオケで六月に演奏した曲なのでAオケを選びました。指揮者の先生によりボーイングも違うので、ここのやり方で、この曲にしたいと思っています。



森先生のお弟子さん

大野 しほ

①Mオケ ②Va

今まで四年間シカゴの大学で勉強していました。外国育ちで日本をあまり知らないので一年間ぐらいいる予定です。



横浜交響楽団

江尻 佳代

①Aオケ ②Ob

このホールは初めてなので緊張しますね。自分らしさが出せてのびのびと演奏ができればいいと思っています。そして大阪を満喫して帰りたいです。



大阪市民管弦楽団

橋本 健

①JAO大阪フェスティバルオーケストラ ②Cello

15年ほど前の大阪大会でうちのオケがホストだったので前回含めてホストとして2回目の参加です。曲がモーツァルトのピアノコンチェルトなので弾いてみたいと思いました。



名古屋市民管弦楽団

丹治 千秋

①Aオケ ②Fl

栗田先生が振ってくださると聞いてAオケを選びました。シベリウスのこの曲は私の苦手な低音部が多いので難しくて大変ですが、非常にやりがいがあります。



和歌山市交響楽団

小川 雅之

①Aオケ ②Va

シベリウスのこの曲は高校生のころから好きで演奏も何回かはしていますが、今回はトップということで緊張しています。



交野シティ・フィルハーモニック

吉川 秀樹

①歓迎オケ ②Cello

自分にとっては二曲とも初めての曲なので新鮮でしたし、指揮も西本先生なのでとても楽しみにしていました。



山梨交響楽団

井上 克彦

①Aオケ ②Hrn

大阪のおいしいものも頭に入れて、もちろん演奏もがんばって楽しんでやりたいと思います。曲も前からやりたいと思っていた曲なので張り切っています。



堺フィルハーモニー交響楽団

伊藤 壽章

①歓迎オケ ②Cello

知事とピアノコンチェルトが弾けるなんて感激ですね！精一杯頑張ってお客さんにも喜んでもらえるようにしたいと思います。これからも是非参加していきたいですね。



久留米市民オーケストラ

緒方 祐子

①Aオケ ②VnII

全国のいろんな団体の方と交流を深められたらいいですね。フェスティバルには素晴らしい先生がいつも来られるのでそういう先生に指導していただけるのが魅力です。

快くインタビューに応じてくださった皆様、本当にありがとうございました。紙面の都合上、全ての方の記事を掲載できず誠に申し訳ございませんでした。

大阪大会を支えた人々

4つの満足を合言葉に



第32回全国アマチュアオーケストラフェスティバル
大阪大会実行委員会事務局長 森 修二

1. 大変お疲れさまでした。まずは、参加者の方に一言。

みなさま、本当にお疲れ様でした。そして、本当にありがとうございますでした。

演奏会が予定より長引きましたので、無事ご帰宅頂けたか心配ですが、参加者の皆様にはお申し込みの段階からいろいろお手間を取らせたり、大会期間中も運営の拙い所をカバーして頂きましたし、また、パート毎に音楽リーダーや移動リーダーなどをお願いした方がいらっしゃったりと様々なご協力を頂いた結果、運営的には大きなトラブルもなく大会を終了出来ました事、ご参加頂いた皆様のおかげです。心より感謝申し上げます。演奏に参加された方には、三日間この大阪で心ゆくまで音楽を楽しんで頂き満足のいく演奏をして頂けたとしたら嬉しいのですが、運営協議会に参加された方には大阪大会に対しこれまで様々なご助言を頂戴しました。関係者・スタッフとしてご参加頂いた方々には、非常に長い期間、準備にご尽力頂きました。心より感謝申し上げます。JAO本部の方々にも本当にお世話になりました。

2. 運営面でも素晴らしい大会だったと思います。開催にあたり、「演奏する人」「聴く人」「支援する人」「歓迎する人」の4つの満足というコンセプトで運営されたわけですが、どのような過程でそのコンセプトが出てきたのですか。またその成果などをお聞かせください。

準備は3年前から始めました。皆さん豊富なアイデアをお持ちでしたが、大会成功に向けて600人もの人たちの気

持ちを一つにするには、何かしっかりした方向性を持つ必要があります。『「演奏する人」「聴く人」「支援する人」「歓迎する人」の4つの満足の最大化で有意義な3日間を！』というコンセプトに集約しました。

「演奏する満足」の成果ですが、まずは、オーケストラ編成でいかに多くの方々のご希望を反映できるかに始まりました。最後は今日実際に演奏した方々の評価ですが、すごく気になりますね。

「聴く人の満足」は数だけで言いますと約2700名のお客様と音楽を共有できた事や、中でも障害者施設さんから193名のご来場を実現できたのは本当に良かったです。

「支援する満足」は、目標を超える協賛を得る事が出来、共催頂きました大阪21世紀協会様を始め、具体的な広報活動でも多くのご支援を頂きました。アウトソーシング頂いた方々のご協力も最高でした。演奏会の盛況こそがご支援頂いた皆さんへの最大の恩返しになったと思うと「ほっ」としています。

「歓迎する満足」につきましては西本さん指揮での歓迎演奏と、太田知事との共演が大阪のメンバーの励みになりました。道頓堀での懇親会も同じ歓迎するなら大阪らしさを徹底的に味わってもらいたいという思いから出たアイデアです。

大事な事は、この4つの満足は相乗効果を持つ、という事です。

3. 3つのフェスティバルオーケストラを編成するなど、久しぶりに大きな大会となったのですが、実行委員会として苦労されたこと、そしてこのような大きな会場をいっぱいにしたチケット販売のやり方など教えてください。

約1年前までの企画段階、2003年度中の協賛金確保、5月1日のチケット発売日までの広報戦略企画、5月の参

次頁上段に続く

この大会の「フェスティバルオーケストラ B」のインスペクターを勤めました山科幸生さんにお話をお聞きしました。



「予想した以上の大成功で喜んでいきます。Bオーケストラのインスペクターチームは全部で7人ほどいるんですが、参加者とのコミュニケーションはうまくいったと思っています。大会当日を迎えるまでに、実行委員会での戦い(笑)はありましたね。というのは、練習時間をいかに多く、そし

て移動を少なくするか、指揮者が振りやすい環境を作るかなど、Bオーケストラメンバーの立場でものを言いましたから、他の担当者と衝突することもありました。ただ、実行委員会としては、参加者やお客様にとっていい大会にするという大目標があるわけで、その面では一丸となって進めることが出来ました。自分の楽団(関西シティフィルハーモニー交響楽団)にとって有意義だったと思っています。

団員にJAOや全国フェスティバルに対する理解が深まりました。

練習場の音漏れや移動のこともそうですが、やってみて初めてわかるということができます。そのときどう臨機応変に対応できるかが重要ですね。そのために実行委員全員の情報の共有がもっとも大切だと痛感しました。

いつごろからか分かりませんが、大会にホストオーケストラの団員が参加しなくなりました。難しいことかもしれませんが、フェスティバルオーケストラに乗る地元の団員もいていいと思います。ちょうどアテネオリンピックにギリシャの選手が出場していないような感じです。考えて欲しいですね。」(談)

加者選考、6月以降の歓迎演奏編成から当日スタッフ編成、直前のスタッフマニュアルをベースにした関係者総動員での最後の準備・調整と、大きな山場が6回はありました。その間、渉外やPR活動は地道に着々と進めてもらいました。あの手がだめならこの手と、大阪流に言えば「ちゃっちょと」解決する、という事の連続だったと思います。

会場を「満席にする」の目標を決めたのはむちゃくちゃ早かったですね。なにせ2757席もの会場なので初めは「アホか？」と思われましたが(笑)。でもとにかく開会式で「チケットは完売しましたよ」と伝えたかった！関西の人には、企画と値段を比べて「こりゃ『お値打ち』な演奏会やなぁ」と、つい自慢したくなるように工夫するのが大切なんです。印刷は、チラシ・プログラム・お土産のうちわの全てが印刷業を営む堺フィルのホルン奏者、松岡裕嗣さんの会心の傑作でした。そのチラシはプロオケの演奏会以上の枚数を刷りまして、近畿2府4県全てをカバーする40以上の演奏会で配布し、毎週各プレイガイドでの売れ行きのチェックと発券調整を繰り返しました。7月中旬、太田知事のご出演を発表した頃には、ほとんど完売状態になっていて正直焦りましたね。西本智実後援会さんには、障害者施設さんへのご招待を進めて頂き、これも非常に嬉しい事でした。

4. 今大会のもうひとつの目玉が、地元の太田房江知事の歓迎演奏だったと思うのですが、それはどういう経緯で実現したのですか？

数年前、日経新聞の「交遊抄」に太田知事が寄稿された時、最もご縁の深い方としてJAOの森下理事長を紹介されました。知事がかつて中3の時に戴冠式を弾かれたのが森下理事長が音楽監督をつとめる地元のアマオケだったという話も分かり、漠然と脈があるかなと感じていました。そんな背景があって、昨年の夏、「ぜひとも全国大会の場で、大阪を挙げた歓迎演奏としてのご共演を」と、だめ元で嘆願書を出しました。3月にはご快諾頂き、大阪大会としてはこれ以上ない歓迎演奏を実現できる事になりました。

5. フェスティバルコンサートもすばらしい演奏でした。森さんの感想を。

とにかく感動しました！実行委員会としては、「一に音楽、二に交流、三・四はお任せ、五に移動」と音楽面が充実する事を大阪大会成功の第一優先条件として準備してまいりました。指導者の方々には、大会3日間の短いハールでいかに最高のパフォーマンスを実現するか、何度もご相談申し上げました。また、オーケストラ編成にあたっては参加者のみなさまのご希望を極力生かす事に出来る限り細心の注意を払ってまいりましたが、定員の関係で何十名かの管打楽器の方々に参加をお断り申し上げたのは、忘れることが出来ません。そして、指導者の方々に十八番の名曲を選んで頂き、まさに「本物中の本物！」という充実したご指導を頂きましたし、参加者のみなさんの溢れんばかりの情熱がまた大変素晴らしく、鳥肌の立つ素晴らしい演奏の連続でした。栗田先生の指揮による完璧なまでに精巧なシベリウスの深い感動。森先生の指導のもと、画期的なチャレンジで実現した大編成弦楽アンサンブルの驚異的な豊かな響き。そして、最後の締めくくりは「展覧会の絵」ソロもトゥッティもダイナミックで、オーケストラ全体が渾身のフィナーレでした。全ての演奏に、それぞれたくさんの方々が客席から飛び出しましたが、私も本当に感動しました。

6. 運営も音楽も大成功の大会でした。来年の名古屋大会の担当者にアドバイスとご注文を。

アドバイスだなんてめっそもありませんが大阪ではこんな理由でこうしました、と経緯や結果は喜んでお話をさせて頂きます。名古屋の方々は既に2001年の運営ノウハウをお持ちですので、さらに名古屋大会らしさを目指されたいと心にと響く素晴らしい大会になると思います。どんな大会になるのだろうか？と、今からワクワク楽しみにしております。オール愛知の方々には「是非、がんばってください！」とエールをお送りさせて頂きたいと思います。

日本語の難しさを知った3日間

司会にアトラクション(?)に大活躍の二人にインタビュー

開会式から始めて、レセプション、フェアウェルパーティーで見事な司会振りを披露した上阪美保子さん(以下上阪)と田中景子さん(同田中)にお忙しい合間を縫って、話を聞きました。

はじめにお二人のこの大会の役割を教えてください。

田中：開会式やレセプション、フェアウェルパーティーの司会進行です。

上阪：その他、開会式に使うスライドの作成や資料も集めました。さらに私は、楽譜の準備や配布、回収も担当しました。

式の構成や原稿作成など他の大会準備と並行してやっていかれたと思うのですが苦労されたことは？

田中：何度も変更があり、来賓や会場配置などが決まらないこと。直前まで確認に走り回っていました。

上阪：言葉遣いや固有名詞の読み方など最後まで気を抜かませんでした。それに敬語の使い方は難しいですね。日本語の奥深さを知った3日間でした。

このような大規模な大会を開催するには何度も打ち合わせをしたと思うのですが、実行委員会の雰囲気はいかがでしたか。険悪ムードになった時はありましたか。

田中：役割間のコミュニケーションがうまく取れなくてぎすぎすした事はあります。でも全体的に皆さんが進んで協力

し、和気あいあいでした。

上阪：うまくいかないことを突き詰めると、連絡の不備、準備期間の不足ですね。

このような裏方の仕事よりも演奏しているほうがいいですね。

田中：楽しく演奏するためには裏方が必要だということが良くわかりました。

上阪：もちろん演奏しているほうが楽しいですが、裏方の皆さんが頑張ってくださるおかげで演奏会ができるということが改めて実感でき、意義あるものでした。

来年の名古屋大会のためにも、反省点やアドバイスがあればお願いします。

田中：連絡系統をはっきりさせておいたほうがいいと思います。進行係は持ち場を離れられないので、アシスタントをぜひ決めておいてください。

上阪：上坂さんと同じですが、来賓確認、会場配置など、司会者が全部チェックするのはしんどいので、サポート役をおいたほうがいいと思います。

お忙しいところありがとうございました。



田中さん(左)と上阪さん

WFAOオランダ会議 開催される

平成 16 年 9 月 18 日から 19 日にかけて、オランダの
アムステルダムで WFAO (世界アマチュアオーケストラ
連盟、神野信郎会長) の会議が森下委員長の呼びか
けにより開催されました。

WFAOオランダ会議を終えて

WFAO委員長 森下 元康

世界各地で活発な活動を展開している皆さん、お元
気ですか。今回 WFAO 会議を初めてヨーロッパで開き
ました。多くの人々が時間をかけて集まってくれまし
た。過去日本での会議が多く、少しは航空費に補助を
出していましたが、現在は経済事情が厳しくその余裕
はありません。したがって今回のアムステルダムには、
旅費も宿泊も自費で集まっていただきました。会議は
友好的で活発なもので、この成功には副委員長のネス
さんコティングさんの協力があったおかげです。その
内容については報告の通りです。

さて 2005 年は日本の愛知県名古屋市で「2005 年日
本国際博覧会」が開催されます。その期間の中で、J A
O を中心に記念コンサートを計画しています。今回の
オランダ会議に出席された国の皆さんにはかなり具体
的な内容をお伝えしました。この内容も報告の中に載
っています。そしてさらに詳しい招待日程や内容、申
し込み手続きを 12 月中にお伝えします。

WFAO の存在が、皆さんたちのそれぞれの活動に対
して価値のあるものにするために、来年は大勢の国の
方々が集まってくれることを願っています。

皆さんの所属するオーケストラや組織は、年ととも
に変わっていくと思います。しかし就任していた地位
を退いて次の人に渡した場合でも、今までの委員は名
誉委員として名前を残し、WFAO 会議の出席も認めたい
と思います。その代わり新たに就任した人を正式に
委員として推薦していただきたいと思います。

では 12 月に発信する招待計画をお待ちになってくだ
さい。



世界から集まった参加者たち

今回はヨーロッパで開催する初めての会議だったの
で、受け入れ先のオランダとの調整や事前準備に苦労
しましたが、その甲斐があり、参加国は、ヨーロッパ
から 10 カ国、アフリカから 1 カ国、北アメリカから 1
カ国、南アメリカから 1 カ国、アジアから 1 カ国の 14
カ国、総勢 28 人でした。

今会議では、各国のオーケストラ活動の状況報告に
次いで、WFAO の今後の活動方針等に対し活発な意見
交換がなされました。また、2005 年日本国際博覧会
(愛知万博) 記念大会となる第 33 回全国アマチュアオ
ーケストラフェスティバル名古屋大会及び万博会場
でのコンサートについて、その概要、招待条件等の説明
をし、参加を呼びかけました。



森下委員長の挨拶

以下は会議の概要です。

(1) 自己紹介及び自国の状況報告

(2) WFAOに対する要望

- ・ Web サイトが有効に使われていないので、有効に使われる対策を取って欲しい。
- ・ アドバイザーがいらない。アドバイザー的存在になって欲しい。
- ・ 名称を変える必要がある。
- ・ 会費を取ったらどうか。
- ・ 指揮者の情報をWebに載せて欲しい。
- ・ 統計資料の作成。

(3) 具体的な活動目標の検討

- ・ インターネットを通じた情報の共有・提供
ホームページ、ニュースレター
- ・ データベースづくり(楽器、楽譜など)
- ・ 世界のオーケストラの相互交流
- ・ インターネットによるコミュニケーションツール(書き込み掲示板など)

(4) 社会貢献活動の検討

- ・ 現代曲の委嘱

(5) WFAO時期活動計画の検討

- ・ Mission、Goals、Planについて、各委員の考えをペーパーにより提出。

(6) 今後のWFAO会議について

- ・ 会員資格を見直す必要がある。
- ・ 名古屋会議においては今後の方針を決定したい。
- ・ 活動方針を確実に実行するため、名古屋に集まってほしい。
- ・ 名古屋大会以降の会議のホスト役を募集している。
毎年の英国青少年オーケストラフェスティバルなら引き受けてもいい。(英国)
ベネズエラのフェスティバルもある(2005年)
スペインのナショナルユースオーケストラでホストを引き受けてもいい。
2006年5月、フィンランドでフェスティバルを予定
2006年6月、EAAOの大会がある(ドイツ)

(7) 愛知万博記念国際アマチュアオーケストラフェスティバルへの参加依頼

(8) 2005年日本国際博覧会についてPR



食事も大切な交流



会議を支えてくれたスタッフ



各国の現状を知り合う

第8回 BDLO 研修旅行

「第8回BDLO研修旅行」

我孫子市民フィルハーモニー管弦楽団
石川 八谷

万緑や「悲愴」の響きかくのごと

BDLOのオーケスタンプでいつも幹事役をされているフラオケさんからのクリスマスカードに2004年のヴァイカースハイム・キャンプの指揮者はミュンヘンに住んでおられるアレジャンドロ・ヴィラさんで曲はチャイコフスキーの交響曲第6番「悲愴」とあった。「悲愴」は既に3回経験済みの曲であるし、前回のキャンプで感動的なブルックナーの交響曲第7番を体験し、できるなら今回もドイツ系作曲家の曲であればよいと密かに願っていただけに少しがっかりする。また、今回が5回目のキャンプになるが、初めて参加した1999年から今回までロシアの作曲家の曲が4回でドイツ系はブラームスとブルックナーだけ。選曲に偏りを感じる。80年の歴史のあるキャンプであるから、6年のサンプリングで云々できないかもしれないが、メール友達であるパウアーさんにそんな思いを書き、「悲愴」についての意見を聞く。そしたら、「悲愴」はとても好きな曲であるが彼にとっては初めての曲である。3楽章は速くて難しそうだ。選曲の方法は知らないが、好きでない曲であるなら参加しないまで、時間があれば他にも行けるオーケストラはもっとあるという答えが返ってきた。アマチュアが活動できるドイツのオーケストラの組織は日本とは異なっているのかも知れない。我々が参加するキャンプは毎年5月から6月、精霊降臨祭の折に開催されるが、BDLO機関紙によるとBDLOとその関連組織が2004年に開催するワークショップは他に18もある。室内楽のものがほとんどであるが、実に多種多様である。パウアーさんの答えが頷ける。ハイドン、モーツァルトなどの作品はもっと規模の小さいワークショップで取り上げられるようである。

ともあれ、5月27日、日本を出発し、ミュンヘンを見物した後、28日の夕刻6時ごろ、ヴァイカースハイムのムジークハウスに到着し、キャンプの人となる。

今回の参加者は総勢116名。その中、日本からの参加者は前回までは10人前後だったのに、なんと28名。これはチャイコフスキーの魅力によるものだろうか。到着すると直ぐ夕食を食べ、例年のように7時から練習。練習場のヴァイカース城のガルテンハウス(園丁)へ向かって歩く。美しいバロック式庭園が迎



カリカチュアの像



ヴァイカースハイム城の庭園

え入れてくれる。庭を縁取るマロニエの花がちょうど満開で彫像が一段と映えてみえる。通りすがりにあるカリカチュアの石像たちが、「また来たね」と笑っているようだ。

指揮者のヴィラさんはイタリア人でお年は30代だろうか。背が高く、少し太り気味。眼鏡をかけ、どことなくシューベルトに似て優しいお顔立ちの人である。オペラの指揮をなさる人と聞いたけれどどんな指揮をされるだろう。緊張が走る。ペースが静かに重音を弾き出し、ファゴットが低くうめくように主題を奏で、やがて、ヴィオラがため息のように引き出す序奏部分。しかし、どうもファゴットとの動きがぎごちない。指揮棒のリズムのありどころが明確でないため、ファゴットが戸惑っているという感じ。とうとう序奏部の途中で止まり、やり直しになった。こんなことは初めてである。キャンプ最初の練習は多少の混乱があっても最初から最後まで通するのが通例で、2年前、あのリズムの難しい「火の鳥」でさえ、最初の練習では止まらずに通したと記憶している。大分様子が違い、先行きにあまりよくない思いが走る。しかし、つまずきながらも、大分遅いテンポで全楽章の通り、初日の練習を終えた。

翌日から4日目に本番を迎えるまでは、昼食後と夕食後に1~2時間の休憩を挟み、朝9時から夜9時まで分奏と総合練習を交互に繰り返す。分奏はプロの講師が指導する。例年と同じパターンのハードな練習であるが、充実した練習なのであまり疲れを感じない。初日、指揮棒に戸惑いを感じた人たちも2日目、3日目になると次第に慣れて、音楽の流れがよくなっていく。これまでのキャンプで経験したどの指揮者も言葉でオーケストラを導くのではなく、歌うことによって導いてくれたが、ヴィラさんもやはり、その例に漏れない。直接的でとても分かりやすい。もしも、ドイツ語であこうと指示を受けたら、お手上げになるところであるので大変な難い。ヴィラさんの歌い方から、彼の意図する「悲愴」はこれまで日本で経験し、自分がイメージしていたものとは大

分異なることが次第に分かってきた。粗野なロシアの音楽という感じではない。お顔がシューベルトに似ているからというわけではないけど、「未完成」を踏み台にした「悲愴」といった感じであろうか。

本番は演奏者で所狭しとなっているガルテンハウスに2、30人ばかりのお客さん。初日に躓いた序奏部もスムーズに滑り出す。第1楽章の例のヴィオラの聴かせどころも上手く弾ける。弦がよく響く。日本からの山元さんのフルートを含む木管がとてもよい。特に、第1楽章、アレグロ・ヴィーヴォに入る前のppppで奏されるクラリネットはぞくぞくするくらいの音色。感情の激しさが剥き出しにならず、より透明感のある「悲愴」が最初から最後まで実現し、その響きは万緑のドイツの大地にとても相応しいと思った。

指揮者のヴィラさんに感謝の拍手。



JAO参加者の皆様(1)



JAO参加者の皆様(2)

二人のワルター

夜9時までの練習が終わると、お城の地下室バーへ直行する。ところが、5月28日の夜はマスターがまだ来ていなくてバーは閉じたまま。仕方なく、入口で待っていると、チェロのネディングーさんとパウアーさんがやってきて、レストランへ行こうということになる。ムジークハウスに一番近い所のレストランに入る。注文の白ワインがでてきたところで乾杯。二人のワルターへというお二人はげげんそうな顔。お互い顔を見知っていても同じ名前とは認識していなかったようである。ということは、親しく語り合った仲ではないようで、私が仲立ちしたことになる。しかし、メールのやり取りの中で書いたことがあるから、パウアーさんは私が昨年、キャンプの後、ネディングーさん宅にお世話になったことを知っている筈である。そのことについて触れると、パウアーさんは「え！」と驚く、意外なお話をしやる。それはBDLO誌に載っているというのだ。寄稿した覚えもないし、できる筈もない。翌朝、ムジークハウスの入口においてあるBDLO誌4月号を開いてみると、確かに私の名前が記されている文が掲載されている。おぼろげに覚えているドイツ語を辿って読むと、どうやら、ネディングーさんが私の文をドイツ語に翻訳したものとわかる。お世話になったお礼の意もこめて、昨年、本JAO誌に寄稿した文を英訳し、ネディングーさんに送った文がドイツ語になって掲載されたというわけである。

パウアーさんとネディングーさんが話す時はドイツ語、私が話題の中に入るときは英語になる。私もほんの少し彼らが話す内容がわかる時がある。パウアーさんが

ネディングーさんに何時からチェロを始めたか質問をしている。45、6歳のときからとネディングーさん。自分がヴィオラを始めたのは35歳を越えてからで、遅くから楽器を始めるのは大変だねとパウアーさん。私がネディングーさんに先生は誰と聞く。ヴェルナー・クレムさんとネディングーさん。こんな調子で会話が進む。クレムさんは、今回、チェロも講師をされている方で、5年前の最初の参加のとき我々日本人はとても親切にして頂いた。それにしても、50歳に近くなってチェロを始め、「悲愴」を弾かれるのだから頭が下がる。

手紙やメールのやり取りで、パウアーさんのことはご家族のこと、日ごろの演奏活動のことを知っているのですが、ネディングーさんに教えてあげられることが多い。彼はヴィオラこそ遅い年齢から始めたが、7歳からピアノを始め、その後、まもなくヴァイオリンとオルガンを習ったという経歴の方である。お子さん3人、お孫さん10人の大家族に生まれ、ご家族と時々自宅で室内楽を楽しむ。毎年、ご自分の街でピアノリサイタルとオルガンリサイタルを開催。ドクターであり、ご専門は物理学。カールスルーエの研究所に勤め、退職されたが、今でも研究所の室内オーケストラを指揮されるという。

2年前、ささやかな私の日本からのお土産のお礼にと、彼はCDを送ってくれた。彼自身が演奏したベートーヴェンの変イ長調(作品26)とホ長調(作品109)のピアノソナタだった。こんな優しくて澄んだベートーヴェンを私はかつて聴いたことがない。また、去年はバッハのオルガン曲のCD、そして今年はバッハとスカルラッチェのピアノ曲を録音したCDを頂いた。優しいタッチ。実に淡々としていて、我、音楽と共にあるという感じがひしひしと伝わってくる演奏である。日ごろどんな練習をされているのか、お会いしたときに聞こうと思っていたが、果たせないままに終わった。ところが、最近、前述したBDLO誌の4月号をなにげなく開いてみると、パウアーさんがどんな練習をしてきたかの記事が掲載されている。またまた、びっくり。ここでも二人のワルターは一緒だったのである。



キャンプが終われば宴会だ!?



キャンプ後、訪れたイタリア・クレモナの町並み

事務局通信

乙酉(きのととり)の年が明けました。あらためまして本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。新年早々、恒例の「第5回日本マスターズオーケストラキャンプ」があり、安永徹先生、青木明先生の情熱的な指導のもと、多大な成果を上げることができました。事務局としましては、横田行雄運営委員長をはじめ、服部驍さん、小倉千秋さんなど地元の方に運営を担

ていただき、心から感謝申し上げます。

本年度の行事は、2月には総会、3月には「第21回トヨタ青少年オーケストラキャンプ(=TYOC)」が実施されます。今回のTYOCは豊橋で開催され、若いメンバーが遅くまでJAO事務所で準備にあたっています。

長い間親しんでいただきました機関紙「JAO(=じゃお)」は今号の第55号を持って終刊いたします。昭和47年(1972年)9月20日発刊の第1号には『この機関紙は日本のいたるところで活動している皆さんの姿を映す「鏡」になりたいと思っています。そしてそれは同時に日本文化の土台を支えるものの記録であると思うのです』と記しています。社会のIT化が急速に進み、編集作業、印刷費、郵送作業、郵送費等をかけるよりもこれからはインターネット関連に人、経費の資源を集中させたいと思います。タイムリーな情報をより詳しく、時には双方向を利用したコミュニケーションを図っていききたいと思います。これまでのご愛読にお礼を申し上げ、これからも変わらぬご支援をお願いいたします。

編集部 余波

猛暑といわれた昨年の夏に行われた大阪大会の記事を中心に編集致しました今号を、正月をまたぎ、大寒を過ぎこし桃の節句を迎えようとするこの時期によろしく皆様のお手元にお届けすることになってしまったことをまづもってお詫びいたします。

この記事のため大阪で取材をしていた頃から今日まで振り返ってみますと地震、台風、大雪等、実に多種多量の災害に見舞われてきたという印象です。おまけに今年は杉花粉が通常の30倍もの量で飛び回るらしく。未だ幸い花粉症でない私も今年はひょっとすると...とびくびくしています。杉花粉の増量の原因の一つには山林に杉の植林をしすぎたためだと(違っていたら済みません)

ところで、杉に限らず伐採目的で切られる木には切り時があるということを知りまして。どう云うことかといいますと、木は月の満ち欠けによって起こる何らかの影響を受けており、新月の頃伐採された木は乾燥のために転がされていてもその断面にカビなど付着しにくく、建材としてもより長持ちをするらしいのです。満月の頃の伐採だとその逆だということで。ストラディヴァリウスなどもこの新月に切った木を使って作られているらしいとか。それで、浪漫を感じ、この楽器も新月に切られた木を使って作られたのだと良いな、なんて自分の楽器を見ながら空想にふけている今日この頃です。

機関紙「JAO」は今号の第55号をもって終刊いたします。今後はホームページを充実させ、タイムリーに情報を発信してまいりたいと思います。永年にわたりご愛読、誠にありがとうございました。

トヨタは、24年1000回を数えるトヨタミニマ

トヨタは、全国で24年1000回を数えるトヨタミニマ
イコンサートなどアマチュア音楽活動をはじめ、美術、演
劇など幅広い分野で地域に根ざした文化活動を応援し
ています。みんなが、もっとワクワク、ドキドキするために
トヨタは、いっしょに歩んでいきます。



いっしょにワクワク、
いっしょにドキドキ。



トヨタは、24年1000回を数えるトヨタミニマ